

木伐田遺跡

1997

(財) 浜松市文化協会

例　　言

1. 本書は浜松市大山町6121番1他で実施された木伐田遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は西遠広域都市計画事業・和地土地区画整理事業に関わる事前調査として実施した。
3. 調査は財団法人浜松土地区画整理協会の委託により、浜松市教育委員会（浜松市博物館）の指導のもと、財団法人浜松市文化協会が実施した。
4. 調査に関わる費用は委託者が全額負担した。
5. 調査は佐藤由紀男（浜松市博物館）が担当し、本書の執筆も佐藤が行なった。
6. 調査の記録、出土遺物は浜松市博物館で保管している。

凡　　例

1. 採図中の方位は真北を示す。
2. 採図中の標高は海拔を示す。
3. 遺構の略号は以下の通りである。

S P - 小穴

S K - 土壙

S H - 烧土

目 次

I.	はじめに	1
II.	地理的・歴史的環境	1
III.	調査の方法と経過	7
1.	調査の方法	7
2.	調査の経過	7
IV.	試掘調査の成果	8
V.	本調査の成果	11
1.	はじめに	11
2.	小穴（S P）	11
3.	土壌（S K）	11
4.	焼土（S H）	13
5.	遺構外出土の遺物	13
VI.	まとめ	13

I. はじめに

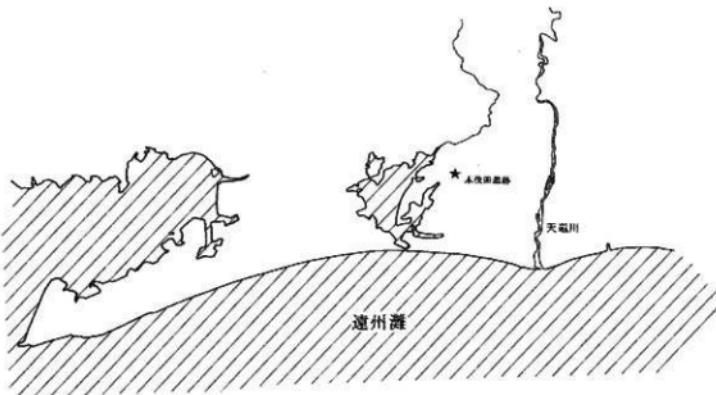
木伐田遺跡は、和地土地区画整理事業に伴う事前の分布調査で発見された新発見の遺跡である。分布調査は1996年9月3日に実施し、大山町字木伐田地内において、第10図右に図示した黒曜石製の石鎚？、石鎚未成品？1点と黒曜石の石片2点を採集した。この遺跡の取り扱いについて、財団法人浜松市地区画整理事業協会と浜松市教育委員会が協議した結果、財団法人浜松市文化協会が遺跡の範囲を確認する為の試掘調査を行ない、さらに必要な部分については本調査を実施することとなった。

新発見の
遺跡

II. 地理的・歴史的環境

三方原台地は古天竜川の堆積作用により、第四紀に形成された更新統の台地である。その東縁では段丘面が南北に続くのに対し、西縁や南縁では段丘の発達は見られず、中小の河川による開析谷が発達している。こうした開析谷からはさらに小さな谷が派生して、台地は幾つかの小丘陵に分断されている。木伐田遺跡も台地西縁のこうした小丘陵上に立地している。北側は花川が形成した比較的大きな開析谷に面し、南側は小さな開析谷に面した、最大幅150m程の極めて狭い丘陵上である（第4図）。

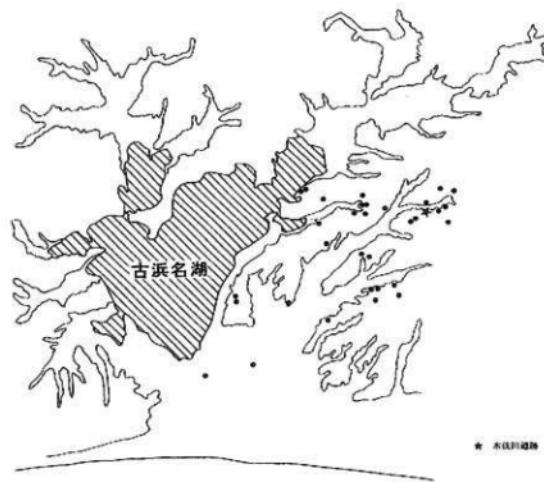
花川流域、及び周辺部の縄文時代遺跡を第2図・第3図に示した。花川の木伐田遺跡の対岸の谷底に近い場所からは、岩宿時代終末から縄文時代草創期の遺物である有茎尖頭器が単独で1点採集されている。採集地周辺の平坦な部分を次郎太夫前遺跡（第2図6、第4図2）としているが、その後の採集遺物は無い。花川流域の縄文時代の遺跡は上流域か



第1図 遺跡位置図



第2図 周辺遺跡分布図 ($S = 1/50,000$)

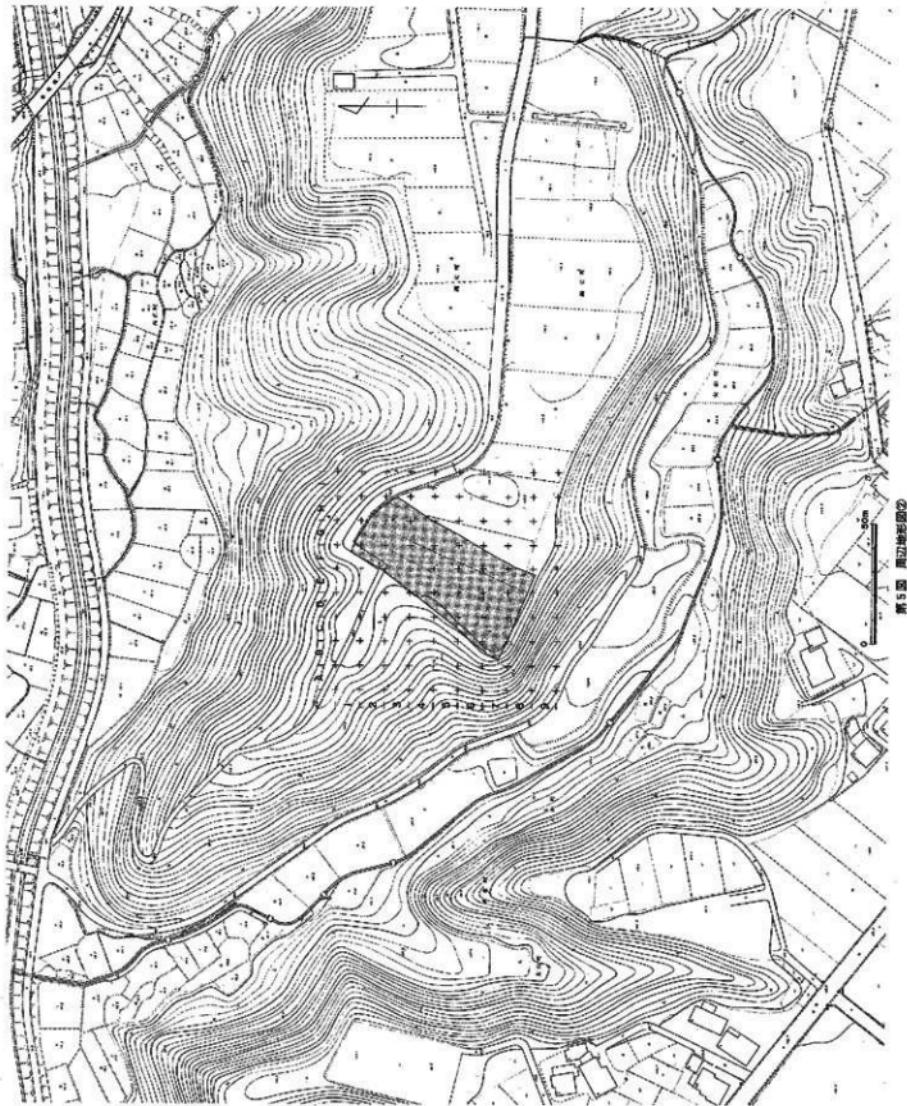


第3図 三方原台地西縁の縄文遺跡

ら、吉野遺跡（第2図1）、勘助山遺跡（2）、喜代作山北遺跡（3）、喜代作山南遺跡（4）、瑞穂橋西遺跡（5）、前述の次郎太夫前遺跡（6）、六道遺跡（8）、湖東町向平遺跡（9）、薬師平遺跡（10）が知られている。また、現在の浜名湖の南半分は縄文時代には陣化していたと推定されいる為（第3図）、築地遺跡（17）や白州町村山遺跡（18）も花川流域の遺跡に含まれる。これらの遺跡は、次郎太夫前遺跡以外では、縄文時代と推定される石材片や縄文土器の小片が採集されているのみであり、詳細な時期をはじめ、その実態は不明である。また、故月岡準三氏が採集され、現在、浜松市博物館に収蔵されている月岡コレクションには、木伐田遺跡と同じ大山町で採集された縄文後期・晩期と推定される上器片、磨製石斧、打製石斧、凹石、石棒が含まれている。採集地点の特定ができるいないが、花川流域では最もまとまった資料である。



第4図 周辺地形図① (1.発掘範囲、2.次郎太夫前遺跡)



新潟 周辺地図②

III. 調査の方法と経過

1. 調査の方法

試掘調査はトレンチと呼ばれる試掘溝を任意に4本設定して実施した。区画整理事業の伐採、伐開工事が完了した部分から試掘調査を実施した為、2・3トレンチと1・4トレンチはそれぞれ別途に掘削した。各トレンチは重機（バックフォー）を用いて、地山と考えられる赤褐色土層の上面まで掘削し、その後、人力にて平面、断面を削って遺構、遺物の有無を確認する方法で行った。バックフォーのバケットには平爪を装着し、調査担当者が立ち会って慎重に掘削した。人力による平面の精査は刃の付いた鏝鎌を用い、断面の精査は刃の付いたスコップを用いて削り込む事によって実施した。検出した遺構や遺物は、人力その位置を縮尺百分の1の図面に記録し、写真を撮影した。

本調査も試掘調査と同様の方法で重機、人力で遺構、遺物の検出を行なった。そして、検出した遺構は移植ごて、手鋤、握じり鎌、竹べら等を用いて慎重に振り下げた。また、必要に応じて遺構内の土層の観察を行なう為に、分割して振り下したり、帯を残したりした。出土した遺物は出土位置図を作成し、標高も計測した。

完掘した遺構は、1メートル方間に水糸を張って20分の1の縮尺で人手にて実測した。実測の為の基準は、国土座標に合わせて20メートル間隔に測量杭を設置した。また、発掘区の名称もこの杭を基準に、西から東をアルファベット順、北から南を算用数字順に10メートル間隔で区画して、その交点によって、F4区の如く呼ぶ事とした。測量杭設置の作業は株式会社フジヤマに委託した。

完掘した遺構は、適時写真撮影を行なった。カメラは6×7cm判（白黒）と36mm判（白写真黒、カラーリバーサル）を使用した。

2. 調査の経過

1996年11月25日・26日

2トレンチ、3トレンチの試掘調査を実施する。

1997年1月22日・23日

1トレンチ、4トレンチの試掘調査を実施する。

1月24日から28日

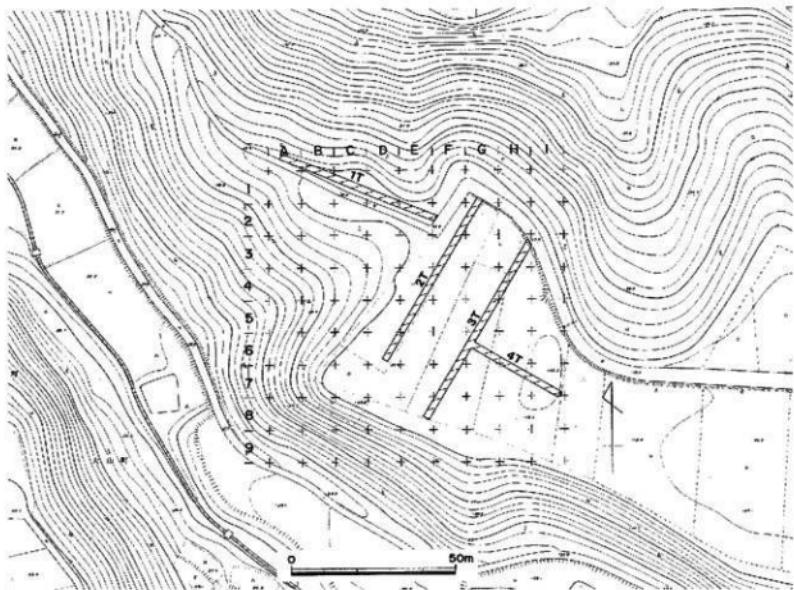
本調査部分の重機による掘削工事を実施する。

1月29日から2月14日

作業員による精査を実施する。

2月17日から21日

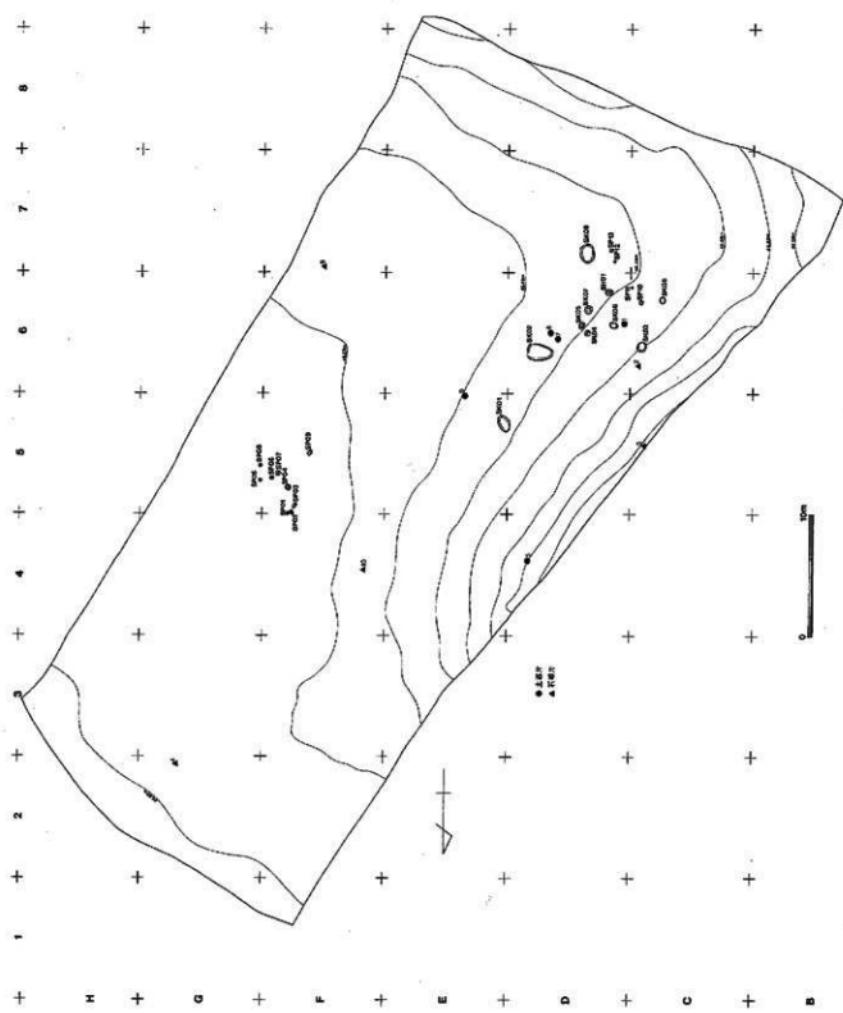
完掘した遺構の写真撮影、実測作業を行なう。



第6図 トレンチ位置図

IV. 試掘調査の成果

- | | |
|-----|---|
| 野菜畑 | 分布調査で遺物を採集した位置はD 5・6区、E 4・5区、F 2・3区の野菜畑部分であり、その東側は茶畑となっていた。また、採集位置の西側の丘陵が細く張り出した部分は山林であった。茶畑や山林では遺物散布の有無の確認は不可能に近い為、この部分にも遺跡が及んでいる可能性が考えられた。そこで2トレンチを野菜畑と茶畑の境の野菜畑側に設定し、それに平行して20m東側に3トレンチ、さらに3トレンチに直交する形で4トレンチを設定した。また、丘陵の張り出した部分に1トレンチを設定した。なお、4トレンチ部分は周辺に比較して50cm以上標高が下がっており(第6図)、地形図では明らかではないが、現地を観察すると浅い谷が南側から入り込んでいる様子が観察される。また、この谷の東側では丘陵の幅も狭まっている。したがって、この谷より東にまで遺跡が及んでいる可能性は低いと判断し、調査の対象外とした。 |
| 茶畑 | 1トレンチでは遺構、遺物は検出されなかった。 |
| 山林 | 2トレンチでは土壌と推定される遺構が検出され、その遺構内から縄文土器(写真図版4-C)が出土した。 |
| 浅い谷 | 3トレンチでは、遺構と推定される変色部分を検出したが、遺物の出土は無かった。 |
| 範囲 | 4トレンチでは遺構、遺物は検出されなかった。
以上の結果から本調査の対象範囲は第5図に示した約2,100m ² とした。 |



V. 本調査の成果

1.はじめに

今回の木伐田遺跡の調査で検出された遺構は小穴(S P)13基、土壙(S K)9基、焼土(S H)1基である。また、出土遺物は分布調査時の採集品を含めて、土器片6点、石器、剝片類8点である。以下、個々の遺構、遺物について述べていく。

2. 小穴(S P)

S P 01から09の9基の小穴はF 5区とその周辺に集中(第8図)しているが、配列に規格性は何えない。C 6区・D 7区のS P 10からS P 13も直線的な配列かとも思われるが、間隔は一定ではない。なお、小穴の覆土はいずれも黒灰色土である。小穴からの出土遺物は無い為、時期の確定はできない。個々の小穴については小穴・土壙観察表を参照していただきたい。

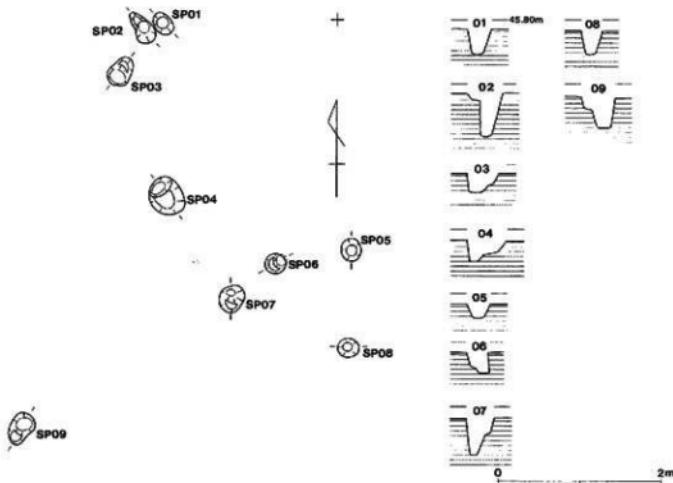
F 5区

時期不明

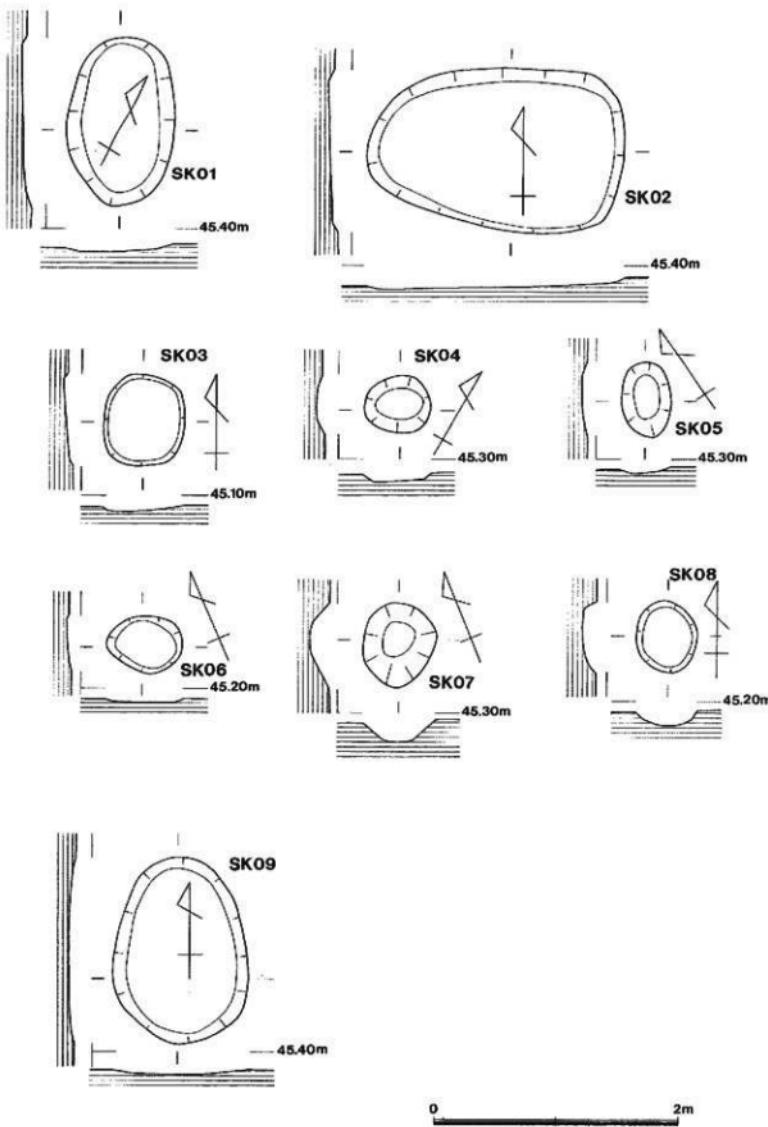
3. 土壙(S K)

土壙は発掘区の南東部分であるD 6区とその周辺に集中している。いずれも深さは20cm以下であり、S K 06などは3.5cmと極めて浅い。斜面に立地している為、掘削時の地表面は流失している事が想定されるので、本来は相当の深さがあったものと思われる。大きさも基底部分だけが検出されたのであるから、同様である。覆土はいずれも黄褐色土であり、

D 6区



第8図 F 5区とその周辺小穴群



第9図 SK実測図

地山と極めて類似している。試掘調査時にSK02から土器片（写真図版4-C）が出土した。摩滅が著しい為、時期の確定はできないが縄文土器と推定される。個々の上墳については小穴・上墳観察表と第9図を参照していただきたい。

4. 焼土 (SH)

D 6区から72cm×54cm、厚さ5cmの良く焼きしまった焼土1基を検出した。

5. 遺構外出土の遺物

遺構外の遺物も主にD 6区とその周辺から出土している（第7図参照）。表面採集品もこの付近の採集である。土器はいずれも摩滅が著しく、時期の確定はできないが、写真図版4-C-7の土器は、出土時には爪形紋らしき紋様がかろうじて観察された。縄文時代の中期前半の土器である可能性が高い。8は底部片である。表採品で図示（第10図）した石器は黒曜石製で重量は1.2g、押し剥離による調整がなされ、石礫らしき形態をしてい

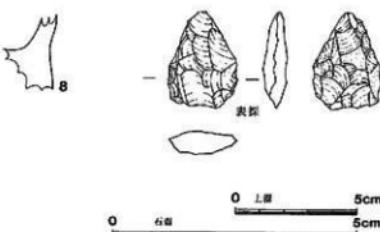
るが、円基盤とするのでもいさか不整形である。未成品とした方がよいかもしれない。この1点以外はいずれも剥片である。石質は10のチャート以外は黒曜石である。

これらの遺物は遺構検出の為に地山を削り込んでいる時に出土したものである。中には5cm以上削り込んだ位置から出土したものもある。木伐田遺跡の土壌の覆土は地山との区別の難しい黄褐色土であり、しかも斜面に立地している為、検出時の深さが浅いことは前述した。これらの遺物も流失してしまった土壌や小穴の基底部分に存在したものかもしれない。

VI. まとめ

今回の調査で検出した遺構の内、小穴や焼土は時期の確定ができないが、土壌は縄文時代中期前半の可能性が高い。出土した石器の石材も黒曜石が中心であり、中期とする推定と矛盾しない。これらの遺構は発掘区東南の300m程度の範囲に集中する傾向がある。また、遺構の流失が想定される為、本来、もう少し多くの遺構が存在した可能性がある。

以上、簡単であるがまとめとする。



第10図 出土遺物

遺構名	地区	直径(cm)	短経(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	遺構名	地区	直径(cm)	短経(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)
SP-01	F4, F5区	29.0	24.0	31.0	45.376	SP-12	D7区	25.0	18.0	14.5	45.091
02	"	44.0	24.0	54.5	45.141	13	"	35.0	24.5	23.0	45.036
03	F5区	39.0	28.0	23.0	45.456	SK-01	D5, E5区	140	88.0	6.5	45.201
04	"	48.0	40.0	27.0	45.396	02	D6区	210.0	134.0	8.5	45.221
05	G5区	28.0	24.0	19.0	45.496	03	C6区	76.0	65.0	6.5	44.971
06	F5区	27.0	24.0	25.5	45.411	04	D6区	55.0	48.0	6.0	45.106
07	"	36.0	30.0	46.0	45.201	05	"	62.0	41.0	5.5	45.191
08	G5区	26.0	24.0	30.0	45.376	06	"	63.0	46.0	3.5	45.086
09	F5区	41.0	26.0	40.0	45.256	07	"	69.0	58.0	17.5	45.071
10	C6区	33.0	33.0	7.5	45.076	08	C6区	60.0	50.0	13.0	44.996
11	"	16.0	13.0	41.0	44.796	09	D7区	154.0	110.0	5.0	45.216

第1表 小穴・土壤観察表

報告書抄録

書名(ふりがな)	木伐田遺跡(きばつだいせき)							
副書名								
卷次								
シリーズ名・番号								
編著者名	佐藤由起男							
編集機関	浜松市博物館							
発行機関	財団法人浜松市文化協会							
発行年月日	西暦 1997年3月14日							
所収遺跡名	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
木伐田	静岡県浜松市 大山町 6121番1他	22202	04-15	34度 46分 00秒	137度 41分 01秒	1996.11.25 ~ 1997.2.21	約2250m ²	区画整理 事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
木伐田	集落?	縄文	土壤 小穴	縄文土器				

写真図版 1

A) 1 トレンチ (東から)



B) 2 トレンチ (南から)



C) 3 トレンチ (南から)



写真図版 2

A) 4トレンチ（西から）



B) 完掘全景（東から）

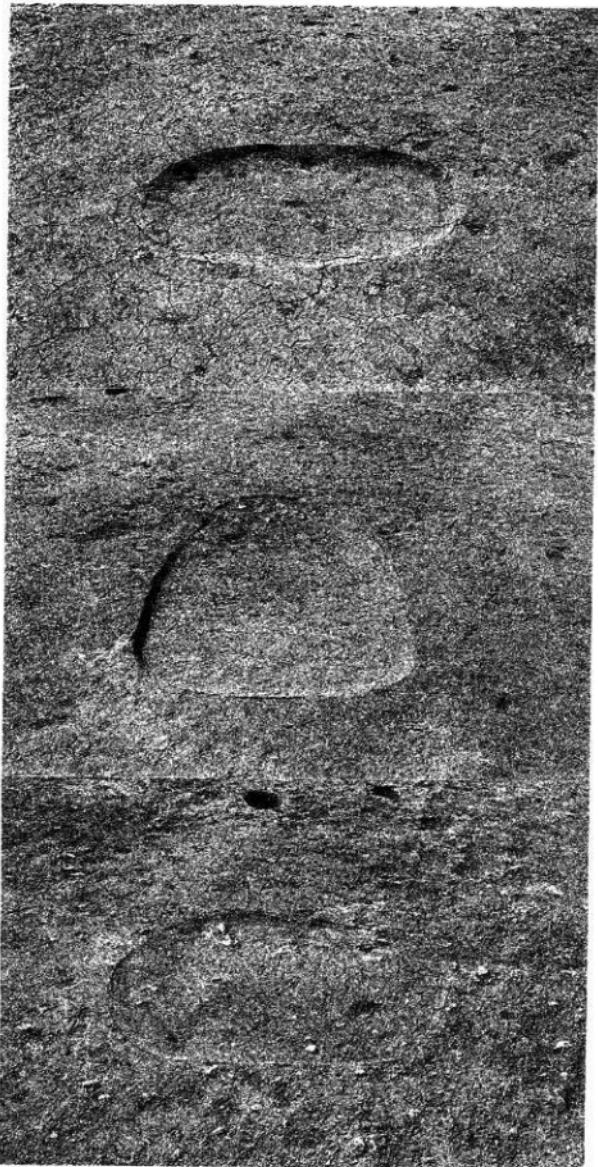


C) F5区周辺小穴群
(北東から)



写真図版 3

A) SK01 (北東から)



B) SK02 (東から)

C) SK09 (東から)

写真図版 4

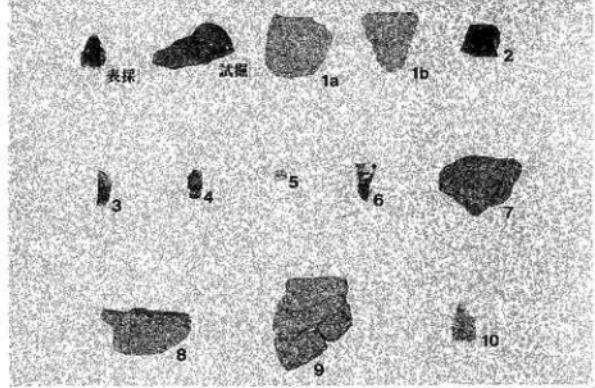
A) 試掘風景



B) 本調査風景



C) 出土遺物



木伐田遺跡

1997年 3月

編集 浜松市博物館

発行 勅浜松市文化協会

印刷 株式会社開明堂

